



日進北小だより

平成31年3月1日

第11号

TEL 048-663-1842

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp>

学校教育目標

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する

上巳（じょうし）の節句

校長 宇佐見 弘幸

校長室のすぐ前にミカンの木があります。今年は接近した台風の影響で、一度は根から倒れてしまいました。用務担当の森田さんに樹の上のほうを剪定してもらい、幹をひもで固定したところ、何とか実をつけてくれました。いつか試食を試してみようと思っておりましたが、先日先を越されてしまいました。風も吹いていないのに枝が揺れているのでよく見ると一羽の鳥が一生懸命実を食べています。灰色の体にボサボサ頭、30cm弱の体長、調べてみると、どうやらヒヨドリのようなのです。ミカンは好物のようで、農家にはあまり歓迎されていないようです。しかし、私にとっては、なんとなく春の訪れを感じさせるうれしいお客さんでした。



さて、3月になりました。3月3日は「ひな祭り」です。女の子の健やかな成長や幸福を願う年中行事です。ご家族でひな人形を飾られたご家庭も多いのではないのでしょうか。古くから受け継がれている「ならわし」や「しきたり」には、それぞれ意味や由来があります。ひな祭りについて調べてみると、このような説もあるようです。古代中国では3月3日、「上巳（じょうし）の節句」は忌み日とされていて、

良くないことが襲ってくる日とされていました。この災難を防ぐために、水辺で手を洗い、身を清めることで災いを免れる習慣があり、これが日本に伝わってきたようです。その後、紙で作った「形代（かたしろ）」と呼ばれる人形で体をなでて穢れを落とし、川に人形を流す「流し雛」という風習が定着しました。現在でもこの行事は、各地に残っています。この「流し雛」と宮中や貴族の子女などが遊んでいた人形遊びの「ひいな遊び」が結びついて、ひな人形が生まれたと考えられています。さらに時がたつと、穢れを移したとされる人形が社寺に持ち込まれ、厄除けをする習慣が生まれました。お祓いを受けた人形は持ち帰って家の中に飾られるようになり、女の子の成長を願うひな祭りの行事になったそうです。また、ちょうど3月は桃の季節であったことや、桃には邪気払いの力があると信じられていたので、「上巳の節句」は「桃の節句」とも呼ばれるようになりました。

いつの時代であっても、我が子を思う親の気持ちは変わらないものであるはずです。悲しい報道が繰り返されていますが、すべての子どもたちの健康を願い、「桃の節句」を心からお祝いしてあげたいものです。

保護者、地域の皆様には、今年度も本校の教育活動にたくさんのご支援とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。残り一ヶ月となりました。本年度の締めくくりがしっかりできるよう職員一同決意新たに日々努力をしております。